



公益社団法人

日本山岳・スポーツクライミング

協会 御中

弾丸登山抑制、
富士山での安全対策に係る要望書

山梨県 静岡県

日頃より、山梨・静岡両県の観光振興につきまして、格別の御指導、御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、世界文化遺産である富士山は、コロナ禍前には、毎年、国内外から20万人を超える登山者を迎えておりました。登山者の皆様に安全で快適な登山をお楽しみいただくため、両県は登山事故の原因となる「山小屋に宿泊せず、夜通しで一気に山頂を目指す登山」いわゆる弾丸登山の自粛や、落石や転倒、疲労や傷病を未然に防ぐための十分な装備による登山を呼び掛けてまいりました。これまでも、貴協会に御協力いただくとともに、両県一体となり安全な登山環境の整備に向けて取り組んできた結果、弾丸登山や軽装登山の危険性について、登山者への認知が徐々に図られているところです。

しかし、富士山では昨年度も一定数の山岳事故や遭難救助事案が発生しており、富士山の魅力を存分に味わっていただくためには、引き続き、安全登山のための呼び掛けを行う必要があると考えております。

特に、今夏は、富士山の世界文化遺産登録から10年の節目であるとともに、新型コロナウイルス感染症の5類移行後、初めての夏山シーズンを迎えることとなり、外国人観光客を含む多くの方が富士山を訪れることが見込まれます。

既に予約が満室となった山小屋もあり、弾丸登山の増加や混雑による登山事故の発生も懸念されております。

そのため、両県では「混雑予想カレンダー」や「遭難防止啓発動画」を作成し、登山道の渋滞緩和や遭難救助事案の低減に向け、登山者への事前注意喚起に積極的に取り組んでいるところです。また、その一環として、この度、両県で弾丸登山を抑制するための啓発チラシを作成しましたので、貴協会におかれましても、関係団体に周知いただきますようお願い申し上げます。

山梨・静岡両県では、今夏におきましても、より多くの方に安心して富士山を訪れていただけるよう、引き続き安全対策を実施してまいりますので、御協力をお願い申し上げます。

令和5年6月22日

山梨県知事 長崎 幸太郎



静岡県知事 川勝 平太





弾丸登山

山小屋に宿泊せず、夜通しで一気に山頂を目指す
弾丸登山は、様々なリスクを伴うため、大変危険です。



休息を十分にとり、余裕のあるスケジュールで、
快適・安全な富士登山をお楽しみください。



危険 高山病

富士山は標高が高く、低圧・低酸素であり、体が環境の変化に順応できず、吐き気、頭痛、めまいなどの症状(高山病)を引き起こすことがあります。弾丸登山による睡眠不足で体力が低下し、高山病のリスクが高まります。

- ✓ 山小屋に宿泊(睡眠・休憩)
- ✓ ゆとりのある登山計画



危険 低体温症

山頂では、夏でも最低気温が氷点下になることがあります。弾丸登山や日帰り軽装登山は、体力も低下し、低体温症のリスクが高まります。

- ✓ 睡眠や休息を十分にとる
- ✓ 防寒着による調整



危険 登山渋滞

山頂付近では、弾丸登山者による登山渋滞が発生する可能性があり、混雑に伴う事故やけがの発生リスクが高まります。



- ✓ 山小屋に宿泊(出発調整)
- ✓ ガイド付きツアーに参加

危険 落石・滑落

弾丸登山では、足元が暗く、見通しも悪いため、滑落やけが、落石事故のリスクが高まります。



- ✓ 宿泊・休憩で集中力キープ
- ✓ 自分の経験・ペースに合った登山
- ✓ ヘルメットを着用